

【ICTを活用するポイント】児童生徒が直接体験で得た気付きを様々な方法で表現する授業。

## 子供の視点から

### ①低学年の児童の特性

低学年の児童には、具体的な活動を通して思考するという発達上の特徴があります。児童は試行錯誤したり繰り返したりして、対象に何度も関わりながら体全体で学んでいきます。

### ②直接体験の重視

このような低学年の児童の発達上の特徴に配慮し、直接体験を重視した学習活動を展開することが大切です。五感を通して対象と関わられるように活動を展開し、ICT端末の活用場面をよく吟味していく必要があります。

## 教材の視点から

生活科では、興味・関心をもったことを自分の言葉や絵などで表現する活動を大切にしています。気付いたことを友達の気付きと比べたり、これまでの成長を振り返ったりする場面で、ICT端末が活用できます。活動の様子を写真や動画で記録しておく具体的な場面を思い起こすのに効果的です。また、教室外で見付けたことをICT端末で撮影し、教室で発表する活動を行うことも考えられます。画像を大きく映すことで、それぞれの発表したいことや気付いたことなどが伝わりやすくなります。

様々な方法で気付きを表現する授業

## StuDX Style (文部科学省より)

[https://www.mext.go.jp/content/20210611-mxt\\_kyoiku01-000015520\\_js2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210611-mxt_kyoiku01-000015520_js2.pdf)

小学校・第2学年・生活科「おいしく育ってね わたしのやさい」2



## 問題解決の過程の視点から

低学年児童の発達上の段階や特性に十分配慮して、資質・能力の育成に向けて効果が上がるよう、より一層、計画的にICTを取り入れることが重要です。その上で、以下の活動が考えられます。

- ・学習対象と教室を静止画でつなぐ。
- ・学習対象と教室を動画でつなぐ。
- ・教育資源と教室を通信でつなぐ。
- ・静止画や動画などの情報を、いつでもどこでも、繰り返し振り返る。
- ・児童一人一人が保存・蓄積した情報で、児童同士の対話を促す。

# 実践報告 小学校2年生：ケンタくんスマイルプロジェクト

## アップデートしよう

①前時までの活動の成果や課題を1人1台端末で個々に確認。

②本時の活動の成果や次時への課題を写真に記録し、次時の学習問題につなぐ。

## 使用したアプリ

- ・写真撮影アプリ
  - ・描画作成アプリ
- 取り組んだことを写真に記録し、次回取り組むことに手書きで印をつけます。

## 本時のねらい

アルパカのケンタくんを楽しませる場づくりの場面で、活動場所でのケンタくんの様子を観察することを通して、ケンタくんのことを考えながら作りたい遊び場を作ることができる。

導入	課題確認	・前の時間に記録した写真を見ることで、今日作ろうとしている場所や方法、手順を具体的に見通します。写真①	継続的な活動では、振り返りと見直しをつなぐ支援が重要です。ICTを用いてこの時間の成果や課題を写真で記録し、次期取り組みたい箇所に印をつけ、次時の学習問題につなげます。
展開	活動	・願いの実現に向けての具体的な方法が明確になることで活動に没頭します。必要に応じて写真を確認します。写真②	
終末	次の課題	・活動の成果を写真に撮り「ここまでやったから今度はこれをやろう」など成果や課題について確かめます。写真や語り合いをもとに学習カードを書きます。写真③④⑤	

①



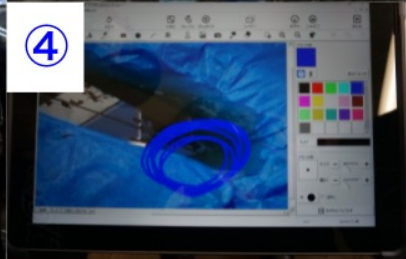
③



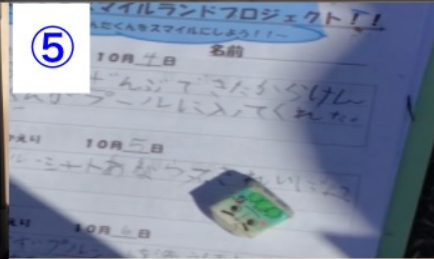
②



④



⑤



## 児童生徒の姿から

アルパカのケンタくんに喜んでもらいたいという願いのもと、子どもたちはブルーシートで水浴び場を作ってきました。始めにタブレット端末で前時の活動を見返し、水を入れることを確かめました（写真①）。そしていよいよケンタくんに試してもらおうとします。ところが、ケンタくんは脚を入れるものの体を水につけてはくれません（写真②）。

なんとか座ってもらおうと、子どもたちは色々な方法を試します。ケンタくんがリラックスできるようにリードを外しますが・・・座りません。ケンタくんの大好きなエサをもって座るように促しますが・・・こちらもだめです。ケンタくんの体を撫でながら「ケンタくん、座ってよ～」と声をかける子どもたち。どうしたらいいか困っていたその時でした！おもむろにケンタくんが座ったのです。「すわ・・・った」「やったあ」と思わず喜びの声が上がりました。

「僕たちがつくった水浴び場に入ってくれた」そんな満足感を感じながら活動の成果を写真に収め、印をつけました（写真③④）。次時は、ブルーシートがずれてしまうことをどうにかしたいようです。この日にやったこと、考えたこと、感じたことを写真と学習カードに記録（写真⑤）する子どもたちです。

## 授業者の先生から

個々が撮影した次時に取り組みたい場所に印をつけることで、漠然とした次時への課題がより具体的になっていくと考えます。友と共有する時にも写真と言葉で、伝えたいことをより具体的に表現することができます。次の時間の冒頭でこの写真を見たり、これまでの活動の写真と比べたりすることで、解決への意識はより焦点化されました。

## この事例のポイント

- ・導入で前時までの活動を写真を比べたりしながら振り返ることで、活動の見通しを具体的にすることができる。
- ・見通しをもつことで活動に没頭し、アルパカの暮らす場所、変化や成長の様子を写真などでクラウド上に残すことで繰り返し比べることができ、関心をもって働きかけることが期待できる。
- ・クラウド上で写真を見ながら成果や課題を語り合うことで、別グループの取組を共有することができ、学びを広げている。